

# ONE for ALL 2

Vol.70

月号

J-LEASE COMPANY NEWSLETTER

2019 February





【社長近影/平成30年12月26日 大分大忘年会にて】

## title : 2019年、年頭訓 ／勇往邁進を完遂させよう

2019年の新春、明けましておめでとうございます。  
年末年始はいかがお過ごしでしたか？  
思いも新たに本日の仕事始めを迎えられていると思います。  
又、多くの皆さまから賀状を頂戴しありがとうございました。

さて、今年の経済をどう予想するのか、日本企業主要115社へのアンケートによりますと、63%の会社が景気の拡大を予想しておりますが、実は昨年の83%より20%程減少しています。

その理由ですが、やはり消費税増税の影響を不安視している会社が多いようです。又、平成12年から続いた景気拡大が、消費税増税を前に息切れするようなことがあれば夏の参議院選挙は厳しくなり、参議院で野党が勝利するようだと、衆参逆転のねじれ現象が起きますので、今後の国会運営はもとより、景気にも相当の支障をきたすことは予想されます。

又、米国でのトランプリスクは、米国、中国にとどまらず、日本にも少なからず影響を及ぼすと危惧している企業も目立ちます。米国大統領は再選に向け、就任時のアメリカファーストの公約をできるだけ多く実現したいと考えるでしょうから、必然的に諸外国との貿易摩擦は大きくなります。そうなるとインフラ輸出は期待できませんので、日本も深刻な対応を迫られると思います。

日本企業は平成の30年間、自然災害やバブル崩壊の後遺症への対応に多くの年月を費やしてきました。足もとで経済情勢は改善したものの、少子高齢社会への対応、財政の健全化、国際競争力の回復などの重い課題が次の時代へと先送りされたことは否定できません。私たちは2019年の政治的な不安要因が、経済の不確実性を高める一年になることを認識しておくべきでしょう。

さて、そのような中で、昨年の当社は、3月に念願の東証一部上場を果たしたものの、さあこれからという昨年第2四半期決算の直前に、監査法人から突然の監査方針の変更を余儀なくされ、その対応のために決算発表が1ヶ月以上遅れました。結果、株主の皆さまには大きなご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。

しかし、当社は過去に遡り、上場時も18年度第1四半期も、常に監査法人から適正監査を受けてきました。我々が今まで提出した数字は過去に遡って、全く間違いや虚の欠片もない真正な数字でありますので、その点では社員の皆さんは胸を張っていただき

いと思います。むしろ今回の件は「東証の一員である以上、旧来の体制ではいけない。チェンジDNAをさらに加速させるように」という指導を頂戴したと前向きに捉えなければなりません。

幸い、当社は今回非常に保守的な償却引き当てを行った結果、金融機関や多くの管理会社さまからもご理解を頂戴しており、本当に嬉しいことです。この上は、この繁忙期に、現場とバックヤードが一体となり目標以上の数字を出すことで、我々を信頼していただいている皆さまの期待に応えようではありませんか。

恒例の年頭訓につきましては、この平成最後の4ヶ月間に新しいスローガンを発表するのではなく、今こそ勇往邁進を完遂する時期であると考えております。この繁忙期を平成の総仕上げと捉え、ここをしっかりと乗り切りましょう。

同時に我々は、これも新年度のスローガンであるチェンジDNAを、会社の根幹にまで浸透させなければなりません。私は、このチェンジDNAを組織の改正、年功序列的な人事制度の改廃を含め、今こそ聖域なく大胆にやり遂げるという強い決意でおります。

我々の立ち位置や様々なコードが上場前後で大きく変わっているのに、今までの業務内容に疑問を感じない人や、今のままで良いのかと自問自答しない人は、かならずや失敗を犯します。全てのルーティンは見直されるべきでしょう。上場前のやり方はもはや通用しなくなっているのかもしれない。

ジェイリースは平成16年に創立し、平成が終わろうとする今年までに大きな成長を遂げることができました。この上は平成最後の繁忙期を勇往邁進のスピリットで乗り越え、5月の新元号発布とともに、新スローガンの下、ジェイリース最大の組織改革に取り組みたいと考えております。

以上、新年を迎えるにあたり、「勇往邁進の完遂」を平成最後のスローガンといたします。この繁忙期に社員皆さんの力を結集し、素晴らしい数字で平成を乗り越えようではありませんか。

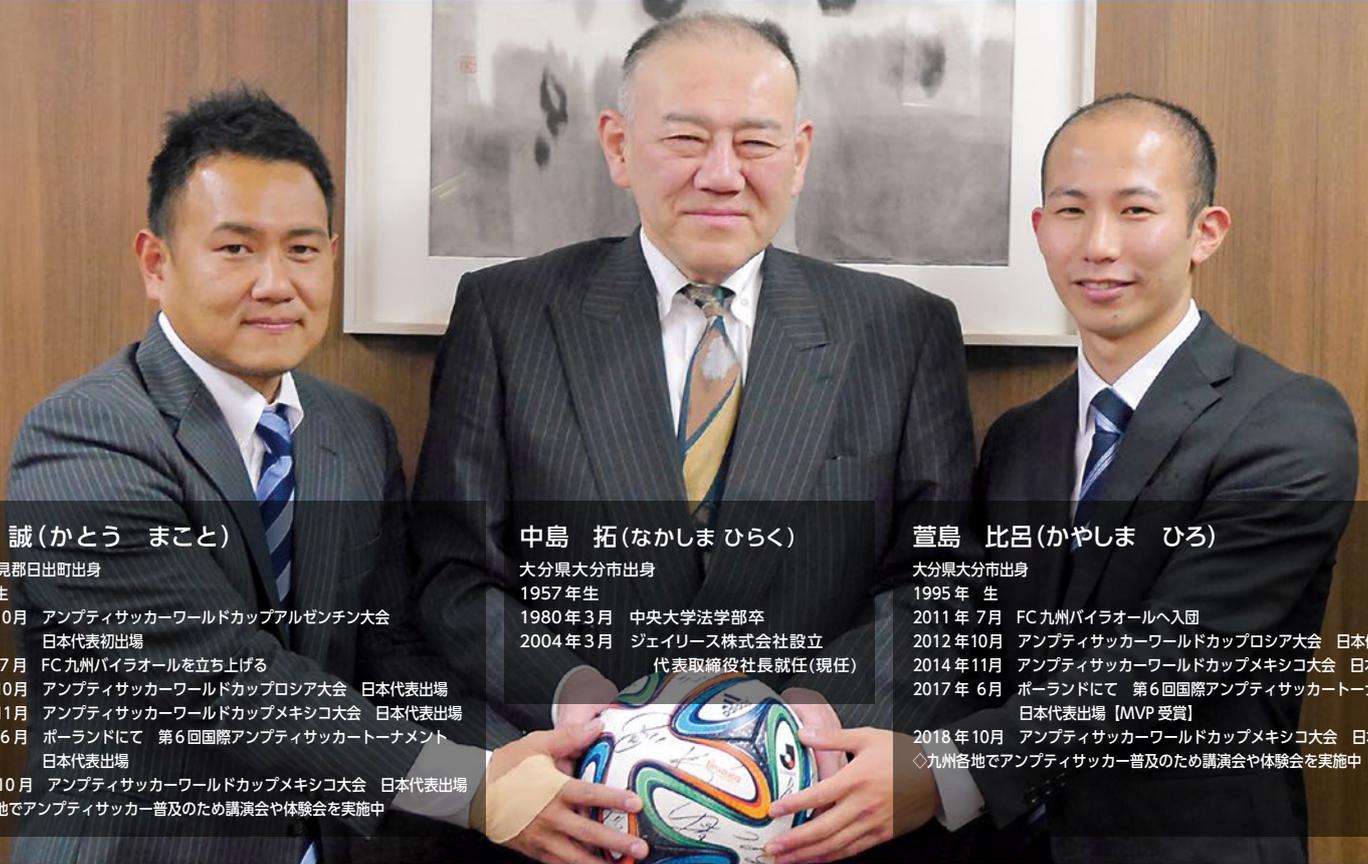
これで年頭訓を終了いたします、ご静聴ありがとうございました。

2019年1月4日  
ジェイリース株式会社  
代表取締役社長 CEO 中島 拓

# トップ会談

～障がい者スポーツと社会の融合～

アンパティサッカー日本代表 加藤誠選手 萱島比呂選手



## 加藤 誠(かとう まこと)

大分県遠見郡日出町出身  
1983年生

2010年10月 アンパティサッカーワールドカップアルゼンチン大会  
日本代表初出場

2011年7月 FC九州バイラオールを立ち上げる

2012年10月 アンパティサッカーワールドカップロシア大会 日本代表出場

2014年11月 アンパティサッカーワールドカップメキシコ大会 日本代表出場

2017年6月 ポーランドにて 第6回国際アンパティサッカートーナメント  
日本代表出場

2018年10月 アンパティサッカーワールドカップメキシコ大会 日本代表出場  
◇九州各地でアンパティサッカー普及のため講演会や体験会を実施中

## 中島 拓(なかしま ひらく)

大分県大分市出身  
1957年生

1980年3月 中央大学法学部卒

2004年3月 ジェイリース株式会社設立  
代表取締役社長就任(現任)

## 萱島 比呂(かやしま ひろ)

大分県大分市出身  
1995年生

2011年7月 FC九州バイラオールへ入団

2012年10月 アンパティサッカーワールドカップロシア大会 日本代表出場

2014年11月 アンパティサッカーワールドカップメキシコ大会 日本代表出場

2017年6月 ポーランドにて 第6回国際アンパティサッカートーナメント  
日本代表出場 [MVP受賞]

2018年10月 アンパティサッカーワールドカップメキシコ大会 日本代表出場  
◇九州各地でアンパティサッカー普及のため講演会や体験会を実施中

### 中島社長

本日はお忙しいところお越しいただきありがとうございます。  
昨年は当社の大分地区忘年会にもゲストとしてご参席を頂戴しありがとうございました。

### 加藤選手

ご招待いただきありがとうございました。  
当日はゲストとしてJ1に昇格した大分トリニータの選手もいらっしゃり、とても華やかな会でした。

### 中島社長

早速ですが、お二人は昨秋に開催された「アンパティサッカーワールドカップメキシコ大会2018」に日本代表として出場、見事過去最高の10位獲得、おめでとうございます。

### 加藤選手

ありがとうございます。  
アンパティサッカーは日本ではまだまだマイナーなスポーツですが、障がいがある方もこうした世界の舞台で戦えることはとても嬉しいことです。皆さまのご理解とご協力があったからこそだと感じています。

### 萱島選手

我々のチームの練習場所がなかなか確保できず、ジェイリースFCさんの練習場所の一部を使わせていただきたという不躰な願いを快く受け入れていただき、とても感謝しています。練習場所を提供して下さることはもちろん、ジェイリースFCさんのレベルの高いサッカーをすぐ近くで見ることができ大変刺激となっています。

### 中島社長

小さなことではありますが、そう言っていただけて幸いです。  
ジェイリースFCの繋がりでご加藤選手が代表を務める「FC九州バイラオール」の皆さまと交流を持ち、私は初めてアンパティサッカーの存在を知りましたが、大変な技術に驚きました。  
先日は当社の社員向けの体験会も開催いただきありがとうございます

ございます。社員に大変好評だったと聞いています。

### 加藤選手

多くの社員さんにご参加いただき、とても楽しい会となりました。アンパティサッカーは専用の器具を必要とせず、日常生活やリハビリ等で使用しているクラッチで競技を行うことから、誰でも簡単に始めることができるスポーツです。企業向け体験会を開催したのは貴社が初めてでしたが、これまでも学校やスポーツイベント等で体験会を行っています。

### 萱島選手

まだまだマイナーなスポーツですから、体験をするに限らず、見るだけでも良いので、とにかくアンパティサッカーを知ってもらいたいと思っています。

### 中島社長

スポーツは人に勇気や希望を与えるものです。  
今は障がい者スポーツに関わることがない方でも、機会がないだけであって、知ってみたら、自分もやってみたく、応援したい、もっと世界に広めたいと思うかもしれません。

障がい者スポーツがもっと広がれば、今後、自分や周りの方が予期せぬ事故や病気で障がいを持つことになっても、自分の好きなことを諦めずに続けることができるかもしれませんね。

### 加藤選手

おっしゃる通りです。  
私は24歳の時、交通事故で左脚の膝から下を失いました。私は小中高とサッカー部に所属し、サッカーが大好きだったので、脚を失ったことで「好きなサッカーもできない」とひどく落胆しました。しかし、義肢装具士の紹介でアンパティサッカーを知り、映像で見た強烈なシュート、ヘディングなど想像以上の迫力に、第二のサッカー人生を歩むことを決めました。その当時、九州にアンパティサッカーのチームがなかったため、東京のチームに加わり、ワールドカップに出場する機会を得ました。世界のアンパティサッカーの真剣さ、迫力に感激した私は、地元九州でチーム



を作ることを決意し、2011年7月にチームを立ち上げました。バイラールはスペイン語で「男性の踊り子」の意味です。またスペインの代表的な踊りフラメンコと、片脚で立つ鳥のフラミンゴをかけてこのチーム名を選びました。

#### 萱島選手

私もがんで右脚を切断するまでは、毎日練習に明け暮れるサッカー少年でした。右脚を失った時は大好きなサッカーができなくなり絶望しましたが、アンプティサッカーの存在を知り、一つの光が見えたように感じました。その後、加藤選手の存在を知り、すぐにチームの発足に加わりました。サッカーができた時の喜びは今でも忘れられません。その後、がんは右肺に転移し、長い治療に入りましたが、サッカーのおかげで前向きに病気とも向き合うことができたと思います。

#### 中島社長

なるほど。  
九州初のチームということですが、メンバー集めなど苦労されたのではないのでしょうか。

#### 加藤選手

はい。自分から新聞社に連絡をして記事を書いていただいたり、SNSで発信したり、少しずつですが口コミで広がりました。障がいを負った時の悲しみは大きかったですが、今はアンプティサッカーのおかげで、充実した日々を送っています。同じような境遇の方にアンプティサッカーを知ってもらえたらと思い、今でも積極的に情報発信しています。

#### 中島社長

当社のジェイリースFCでも、創立までの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、選手の意見を尊重し、話し合いを重ね、チームで共通の志を持ってスタートすることができました。  
おかげさまで先日、大分トリニータ、ヴェルスパ大分で活躍した木島悠選手が加入しました。

我々はプロを引退した選手のセカンドキャリア支援の役割も担いたいと思っています。多種多様な、サッカーを愛する全ての方が、能力や年齢、環境が変わっても自分に合った形でサッカーを続けられる環境づくり、それもスポーツを通じた社会貢献と考えています。

#### 萱島選手

木島選手が加入したジェイリースFCさん、とても楽しみです。  
私たちがアンプティサッカーと出会い第二のサッカー人生を歩めたように、全ての方が分け隔てなくスポーツに親しむことができる社会となれば大分県全体ももっと盛り上がっていくと思います。

#### 中島社長

そうですね。是非連携して大分県を盛り上げていきましょう。  
日本国内のアンプティサッカーの浸透はいかがでしょうか。

#### 萱島選手

日本の競技人口は100人弱ですが、世界で見るとまだまだ少ないです。世界では次々と新しいチームが発足しており、トルコではプロリーグがあります。中東では地雷の影響で身体に障がいを持つ方が多く、元軍人の選手は迫力が凄いですよ。

#### 加藤選手

先日のワールドカップでも観客の多さに驚きました。開催国メキシコとの対戦では数千人の観客が集まっており、圧倒されました。

やはり世界の舞台に立つと日本ではまだまだ知名度が低いことを痛感させられます。

#### 中島社長

なるほど。選手の皆さんはアンプティサッカーと仕事や家庭の両立をされているとのことですが、職場の理解は十分でしょうか。

#### 加藤選手

まず、休暇については、やはりマイナーであることから、ワールドカップ参加のための休暇のあり方もそれぞれです。大変有り難いことに、私も萱島選手も移動日と試合日に特別休暇をいただき、職場からも後押しをしていただけました。しかし、中には休みを取得できずにワールドカップへの参加を諦めた選手もいます。いずれはアンプティサッカーもプロができて、企業に所属できるようになると嬉しいです。

#### 中島社長

そうですね。確かに実業団としてプレーをしているわけではないので支援をするかどうかは個々の判断ですね。そういった面では費用も個人負担でしょうか。

#### 萱島選手

応援してくださる皆さまからのご協力で運営しています。  
昨年はワールドカップの遠征費を捻出すべく、初めてクラウドファンディングを利用しました。インターネット上で募金を集めるという方法ですが、合計228名より目標金額を上回る3,404,563円のご支援をいただきました。

#### 中島社長

それは素晴らしいですね。多くの方々から知っていただく機会にもなったことと思います。  
さて今後の目標をお聞かせいただけますでしょうか。

#### 加藤選手

大きな目標はサッカー日本代表と同じユニフォームを着ることです。

現在は協会が異なることから実現していませんが、世界では実現している国もあります。

障がい者サッカーは同じ連盟でも7つの障がい者サッカーがあります。少し前までは、種類別でユニフォームは違っていたのですが、今では同じユニフォームに統一されました。少しずつ前に進んでいると感じていますので、いずれは障がいの有無に関わらず同じユニフォームを着て試合に出場したいです。

#### 萱島選手

チームの目標としては、今年5月と11月にある選手権大会で二冠を獲得することです。

また、全国大会は東京か大阪での開催です。私たちを応援してくださる地元の方々、更にはアンプティサッカーを知らない方に、生で観戦して欲しいと思っています。ここ大分で、例えば、健常者障がい者が一緒にクラッチを使い同じ条件でアンプティサッカーをするなど、小さな大会でも良いので開けたら嬉しいです。

#### 中島社長

当社は昨年U-9ジェイリース杯を開催しました。初めての試みでしたが、今後も継続したいと思います。その際は是非、開会式等の前座で競技の紹介をしていただき、場を盛り上げていただきたいです。本日はありがとうございました。

#### 加藤選手、萱島選手

ありがとうございました！



## ✉ 寄稿コラム ✉

元気の種を育ててみませんか

### 難しいことをやさしく

NPO法人女性自立の会 理事長 有田宏美氏

先日、NHKスペシャルで、「キャッシュレス」をテーマに取り上げていました。番組は、キャッシュレスの功罪をいろんな角度から掘り下げるものでした。キャッシュレスにネガティブな人の多くは「浪費」をイメージするようです。私のところに来る相談者も、カードの使い方を間違った方が大半ですから、同じように感じている人が多い印象を受けます。

消費者が、今より少しずつお金を使うと消費は活性化します。経済全体の視点で見ると悪いことではありません。とはいえ、個人の財布の都合を言えば、お金は「手元に残しておきたい」と思うのが本能です。番組の結びもその話でした。

番組の最後に外国の学者が、「キャッシュレスはモノを買う心理的なハードルを下げる」とコメントしていました。財布からお金が出ていく心理的な痛みや不安を忘れさせるという意味です。なるほどうまいことをいうものです。

さて、最近、大学生に「奨学金の返還」について講演する機会が多くなりました。若者が背負っている奨学金問題と、それに連鎖した「奨学金破産」は深刻な問題です。昔の人がイメージする奨学金と現在のそれは似て非なるもので、とにかく複雑です。さらに、制度も毎年のように変わる(加わる)ので、建て増しが増えて、調べるたびに新しい発見があります。

奨学金は、学生の間は貸与を受け続けるだけで、自分の財布からお金が減るわけではないので、自分の「借金」という認識はあるものの実感は薄く、これを18～22歳の学生に理解してもらうのは本当に難しいと日々頭を巡らせています。そんな時、いつもここに留めているのが次のフレーズです。

むずかしいことをやさしく  
やさしいことをふかく  
ふかいことをひろく

五木寛之さんの著作に書かれてあった言葉です。五木さんは仏教に造詣が深く関連の著作もたくさんあります。これは浄土真宗が広まる過程での法然、親鸞、蓮如の役割を言葉にしたものだそうです。五木さんは創作者としていつもこのことを考えて苦悶しているといいます。私には仏教の教義はよくわかりませんが、私も、人に「伝える仕事」をしている身です。進むべき方向を見失っている相談者や未来の日本を担う学生に接するときは、こうした心で丁寧に向き合おうと思う日々です。

有田 宏美氏  
(ありた ひろみ)

女性の心の支援会「特定非営利活動法人 女性自立の会」理事長。  
主に、過重債務に陥った女性のカウンセリング、家計アドバイスに努める。同時に債務問題未然防止活動としての消費者教育にも力を注いでいる。  
著書に「人生をやり直すための63の方法」(評言社)、監修「どうしても貯められない!!あなたのための今年こそ100万円貯める貯金生活」(大和書房)等がある。

☆新ブログ開設☆

NPO法人女性自立の会ブログ「スタッフつれづれ日記」

<http://blog.canpan.info/joseijiritu/>





ジェイリース  
J-LEASE CO., LTD.